

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20028

建築物名称	株式会社シグマ新本社建設工事
建築主	株式会社シグマ 代表取締役 山木 和人
建築物の所在地	川崎市麻生区栗木2丁目8-12、13、14
設計者氏名、建築士事務所名	廣松 太 鹿島建設株式会社 横浜支店 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	7,075.59㎡
用途	事務所
構造	鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
階数	地上4階
工事完了予定年月	令和4年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高スコアのスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	3.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 敷地内温熱環境の向上	緑化指針に適合している。 周囲への圧迫感を軽減し、緑地を設け良好な景観を形成している。 外構緑化・屋上緑化をしている。	3.3/4.3	3.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	外構緑化・屋上緑化をしている。	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.4
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	断熱性の高い建材を採用している。 ブラインド、庇でグレアを制御。	0.6/0.7	3.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	緑化指針に適合している。 外構緑化・屋上緑化をしている。	1.7/2.3	3.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.88 - BEI=0.99 主要な用途別にエネルギー消費量の計測が可能なシステムの導入。	2.8/5.0	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水型の水栓・便器の採用。 デッキ合成スラブ・プレキャスト・プレストレストコンクリートの使用。OAフロアの採用。 ノンフロン断熱材の採用。	3.3/4.7	3.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	外構緑化・屋上緑化をしている。	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.5
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数の長い内装材・配管材の使用。	0.3/0.5	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水型の水栓・便器の採用。 デッキ合成スラブ・プレキャスト・プレストレストコンクリートの使用。OAフロアの採用。	2.8/4.0	3.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐輪・駐車施設・荷捌き用駐車施設の確保。	0.3/0.4	4.4
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	緑化指針に適合している。 外構緑化・屋上緑化をしている。	1.7/2.3	3.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.88 - BEI=0.99 主要な用途別にエネルギー消費量の計測が可能なシステムの導入。	2.8/5.0	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	外構緑化・屋上緑化をしている。	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	-	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.88 - BEI=0.99 主要な用途別にエネルギー消費量の計測が可能なシステムの導入。	2.8/5.0	2.8

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体				
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数					
	G	W	R	H										
Q 建築物の環境品質										3.7				
Q1 室内環境										3.9				
1 音環境										3.8				
1.1 室内騒音レベル										3.0	0.40	-	-	3.8
1.2 遮音										4.6	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能										5.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能										4.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-	-	-	-	
1.3 吸音										4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境										3.7	0.35	-	-	3.7
2.1 室温制御										3.2	0.50	-	-	3.7
1 室温										3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能										4.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性										3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御										3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式										5.0	0.30	-	-	
3 光・視環境										4.3	0.25	-	-	4.3
3.1 昼光利用										4.2	0.30	-	-	4.3
1 昼光率										5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口										-	-	-	-	
3 昼光利用設備										3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策										4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御										4.0	1.00	-	-	
3.3 照度										4.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御										5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境										4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策										4.0	0.50	-	-	4.0
1 化学汚染物質										4.0	1.00	-	-	
4.2 換気										4.0	0.30	-	-	
1 換気量										4.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能										3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮										5.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理										4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視										5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御										3.0	0.50	-	-	

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.5				
1 機能性					3.7	0.40	-	3.7				
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-					
1	広さ・収納性				3.0	0.33	-					
2	高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-					
3	バリアフリー計画				3.0	0.33	-					
1.2 心理性・快適性					4.3	0.30	-					
1	広さ感・景観			天井高2.9m以上、十分な窓の設置	3.0	0.33	-					
2	リフレッシュスペース			執務室の1%以上のリフレッシュスペースを確保、自販機の設置	5.0	0.33	-					
3	内装計画			建物全体のコンセプト、機能促進に配慮した内装計画等	5.0	0.33	-					
1.3 維持管理					4.0	0.30	-					
1	維持管理に配慮した設計			防汚性の高い内装材の採用等、清掃のしやすさに配慮した設計	4.0	0.50	-					
2	維持管理用機能の確保			清掃用流しの設置等、維持管理のしやすさに配慮した計画	4.0	0.50	-					
2 耐用性・信頼性					3.2	0.30	-	3.2				
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-					
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-					
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-					
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.30	-					
1	躯体材料の耐用年数	R			3.0	0.20	-					
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-					
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		耐用年数の長い内装材の採用	5.0	0.10	-					
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	-					
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		耐用年数の長い配管材の採用	5.0	0.20	-					
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20	-					
2.4 信頼性					3.4	0.20	-					
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-					
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-					
3	電気設備				3.0	0.20	-					
4	機械・配管支持方法			耐震クラスA以上	4.0	0.20	-					
5	通信・情報設備			通信手段の多様化、浸水対策、TVIによる災害情報入手	4.0	0.20	-					
3 対応性・更新性					3.6	0.30	-	3.6				
3.1 空間のゆとり					4.6	0.30	-					
1	階高のゆとり			階高3.9m以上	5.0	0.60	-					
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比率<0.3	4.0	0.40	-					
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	-					
3.3 設備の更新性					3.4	0.40	-					
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-					
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-					
3	電気配線の更新性			OAフロア等により、仕上材を傷めず修繕・更新可能	5.0	0.10	-					
4	通信配線の更新性			OAフロア等により、仕上材を傷めず修繕・更新可能	5.0	0.10	-					
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-					
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-					
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	3.7				
1 生物環境の保全と創出				G	W		H	積極的な外構・建物緑化	4.0	0.30	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				まちなみ調和に配慮した景観計画	4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0	0.30	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									3.0	0.50	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H		3.0	0.50	-	

LR 建築物の環境負荷低減性													3.1	
LR1 エネルギー										—	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				W		H				4.2	0.20	-	-	4.2
2 自然エネルギー利用				W		H				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				W		H		[BE][BEIm] = 0.99		2.0	0.50	-	-	2.0
4 効率的運用										3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価										3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				W		H		主要な用途別にエネルギー消費量を計測		4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				W		H				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価												-	-	
4.1 モニタリング				W		H						-	-	
4.2 運用管理体制				W		H						-	-	
LR2 資源・マテリアル										—	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護				W		R				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水								節水型器具の採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無										3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無										3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減										3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減				W		R		デッキ合成スラブ等の採用		5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R		—		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R		床：ビニル床材		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R		躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避										3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用								該当物質を含まない建材種別を3種類採用		4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避										3.5	0.70	-	-	
1 消火剤				W						-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				W				ノンフロンを採用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒				W						3.0	0.50	-	-	
LR3 数地外環境										—	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				W				高効率な設備機器を採用し、CO2を低減		3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮										3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止								低NOX機器の採用		4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制										4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減						R		自主的な対策を実施		4.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						R				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制						R		十分なスペースの駐車・駐輪場確保、渋滞緩和に配慮した導入計画		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						R		ごみの分別容器の設置、減容化対策の実施等		4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮										3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										3.0	0.40	-	-	
1 騒音										3.0	1.00	-	-	
2 振動										-	-	-	-	
3 悪臭										-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制										3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制										3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制												-	-	
3 日照障害の抑制										3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制										4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画		5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策										3.0	0.30	-	-	